

白川町立小・中学校再編計画 地区説明会 会議録

1. 日 時 令和4年10月8日（土）午後7時30分から午後8時55分
2. 会 場 白川町町民会館
3. 参加者 別紙名簿のとおり 8名
町教育委員会：鈴木教育長、大岩課長、玉置学校再編専門監、鈴木
4. 資料等 別紙のとおり
5. 記 録

- (1) 開会あいさつ 大岩課長
- (2) 資料説明 鈴木教育長（19:31～20:03）
- (3) 質疑・意見等

○30代 女性A

- ・小中一貫校についてモデルとしている学校はあるか。

○鈴木教育長

・白川町の構想を先行して実施している所はないためいわゆるお手本は無いが、この考え方については特に新しいものではない。これまでに新校舎建設を伴う小中一貫校という事例は県内には無いが、これからは出てくると思う。ただし、中学校の近くに小学校を増設した一貫校はあるが、本町の場合は新たに学校建設を行うものである。

義務教育学校の事例としては、白川村の白川郷学園や羽島市の桑原学園があるが、隣接した校舎を使用している。教育委員会では、3小1中体制の後に、そのままの学校配置で1つの義務教育学校にしようと考えているが、このような事例も無いので、本町の取り組みが先進的な事例になると良い。

○40代 男性A

- ・3小1中体制になった場合、使用しなくなった校舎はどうするのか。旧白川小学校の体育館は社会体育で使用されているが、校舎そのものは活用がされていないので、もったいないと感じている。懐かしむだけの場所ではなく、他目的に活用することはできないか。

○鈴木教育長

・現在のところ具体的な活用案は決まっていない。廃校活用の事例研究として地元の有志で旧馬瀬中学校を見学した経緯はある。教育委員会としては、廃校施設の情報発信として文部科学省が行っている「みんなの廃校プロジェクト」という全国的な取り組みがあり、ホームページ上で活用募集をすることができる。現在、旧白川小学校と旧佐見小学校は閉校して廃

校となっており、町の教育財産となっているが、これを普通財産に移管することで今後の有効活用策について検討を進めていきたい。学校以外の用途に活用するか取り壊しをするかという選択肢があるが、教育委員会だけでなく町全体の課題として考え、活用を検討していきたい。

○40代 男性A

・今の質問に関連して本町は自然が豊かな町なので、キャンプや宿泊施設など、集客ができる用途に活用ができれば地域の活性化にもつながると思う。また、子どもたちの遊び場所が少ないのであわせて検討してもらえないか。

○鈴木教育長

・これまでの意見の中には、使用しなくなったプールを魚の養殖、校舎は改修して宿泊施設に活用したらどうかという提案意見もあった。統合後もプールに関してはどこかの小学校のプールを引き続き使用したいと考えている。廃校舎の活用については、引き続き町民の皆さんから提案やアイデアを頂きたいと思う。

○玉置学校再編専門監

・JR下油井駅の近くに旧大山小学校の施設があり、現在の大工学校に使用される前にその活用を検討した時期があった。学校施設は特定の者が使用する施設であるため、避難訓練をすることを前提に耐火基準が比較的緩和されているが、宿泊施設の場合は、不特定多数が利用する施設となるため耐火基準が厳しくなり、スプリンクラーの設置のほか、大規模な改修が必要となり、多くの経費が必要になるという課題があった。他の自治体ではプールを温水化している例もあるが、どうしてもランニングコストが課題となる。ライフサイクルコストの縮減を図りつつ地域の活性化につながるような活用を皆さんと検討していきたい。

また、旧佐見中学校は小学校化改修を行ったところであるが、平成28年から令和元年にかけて瑞浪市が学校再編を行い、空き校舎がいくつかできた。国道沿いでアクセス等の条件が良い学校については、早々にトヨタ系の企業が買収した。一方で国道から離れた山間地の学校に関しては、買い手も無かったことから立地条件等に大きく左右され難しい課題であると認識している。

○40代 男性B

・将来的かつ自然発生的な話しとして、佐見小学校や黒川小学校は、美濃加茂市の三和小学校に酷似していると考えている。三和小学校は小規模特認校として学校を超えて児童生徒を募集しており、近年は移住者も増えているという話しを聞いた。11月には小学校で地域

のイベントが開催されるようで地域と学校がうまく連携しているという印象を受けた。
美濃加茂市と本町では立地条件が異なるが、特に黒川や佐見については小規模特認校という制度を活用した取り組みができないだろうか。小規模特認校のメリットやデメリットについてお聞きしたい。

○鈴木教育長

・小規模特認校とは、制度的な内容としては、教育委員会の指定校変更という手続きとなる。例えば、白川地区の子どもは本来であれば白川地区の学校に通うこととなるが、住所地と異なる学校へ通うことが小規模特認校であり、制度的には新しいものではない。三和小学校や可児市の兼山小学校は美濃加茂市や可児市内でも1学級20人*以下の極めて小さい学校規模であり、市内の周辺には大きな学校もあるが、指定校を変更することで小規模の学校へ保護者の責任で通学できるものである。20人*という目途の人数は自治体で決めることになるが、本町の場合、白川中学校以外は全て20人*以下の小規模校であるため、また、町外からの場合は、区域外就学という制度により通学することが可能である。

美濃加茂市や可児市と違い小規模特認校という規模を更に下回っている学校がほとんどであり、この制度を活用することは難しい。

*20人・・・美濃加茂市の場合、令和5年度においては1学級17人以下の学級において小規模特認校制度を運用している。(三和小学校、伊深小学校)

○40代 男性B

・単純に近隣の町外から引っ張ることができればと思っていたが、小規模特認校の制度と区域外就学について理解することができた。

○鈴木教育長

・町外からの区域外就学は可能だが、この制度を利用して本町の学校へ転入する場合、住む場所を確保することが必要な条件となる。他県では勧誘をしている自治体もあるが、空き家等の住居対策が必須であり、先ほどの子どもの遊び場確保と併せてまちづくり全般の課題である。

○60代 女性A

・今後、統合をした場合の子どもの数は把握できているか。私の娘は川辺町に住んでいるが、白川町に帰ってきても同級生がいないのであれば、というのが正直な思いである。

統合後の将来的な見通しがあれば教えてほしい。

○鈴木教育長

・出生数については、年間で20人程度でありかなり減ってきている。町全体の出生数なので、地区に分かれると更に少なくなるし、佐見地区については、出生数がゼロという年もある。今後もこの出生数を維持するためには移住などの施策が必要だと考えるが、若い年代を確保していくことが必要であり、これに関してもまちづくり全般の課題だと認識している。

○40代 男性B

・小学校と中学校を一緒にするという事は階段等の高さを変える必要があると思うが、そういう部分も含めてプロポーザルを行うのか。

○鈴木教育長

・階段の高さについては、小学校16センチ、中学校18センチという建築基準法上の基準があるが、基本的には小学生に合わせることになる。先に佐見中学校の小学校化改修を行ったが、階段は18センチのため小学校の基準に合っていないが、両方に手すりを設置することで建築基準法に合致した改修を行った。新たに整備する新校舎については、そうした基準を踏まえたうえでの設計が必要となる。

○玉置学校再編専門監

・施設改修を行った佐見小学校の2学期以降の状況を見ていると子どもたちは手すりを使うことなく元気に校内で過ごしている。佐見小学校は複式解消を行うための講師を配置しているが、高齢の講師がおみえになり手すりを使用している。子どもたちに関しては、3階に普通教室があるが階段の昇降の心配はない。

先ほど質問があった小中一貫校の取り組みについては2000年当時から始まっており、品川区の日野学園は、全国初の施設一体型小中学校として2006年頃に完成している。その頃は旧建築基準法のため階段の高さは16センチだったが、法改正がされた2015年以降は18センチに合わせて手すりを設けることになった。これまで約20年間の取り組みで様々な蓄積があるので、新校舎建設に関しても機能面の充実に加えて、子どもたちが安全かつ快適に使用できる校舎づくりが重要だと感じている。

今後、基本計画をお示しできる段階で皆さんにもご意見をいただきながら進めていきたい。

○40代 男性A

・まだ計画の段階だと思うが、新校舎建設の位置は決まっているか。現在の白川中学校の山側は日当たりが良くないし、道路側だと道路から校舎やグラウンドの様子が全く見えない

ので寂しさを感じると思う。運動会や学校行事の際の保護者駐車場の確保等も課題になると思うがどうか。

○鈴木教育長

・新校舎の建物配置については、これから検討していくことになるが、現在の校舎を使用しながら新校舎建設を進めるとなるとおおよその位置は決まってくる。ご存知のとおり山側にはイエローゾーンがあり、建物の配置は避ける必要がある。そのため道路側に建設することになるが、質問にあったように圧迫感や閉塞感が生じてしまうので、そうした課題をクリアできるような設計を考えていく必要がある。新校舎の建設によりグラウンドは現状より狭くなるので、運動会等の実施に関しては、小・中合同にするのか、別で開催するのかなど指導面での検討が必要になる。

新校舎は拠点的な施設となるが、大野台パーク、役場、町民会館など周辺の施設を含めた教育資源をどう活用するか今後の基本計画において検討していきたい。

○40代 男性A

・地域の人たちは子どもの姿が見える学校を楽しみにしている。道路から校舎しか見えない状況ではなく頑張っている子ども達の姿が見えるような設計を考えてほしい。

○鈴木教育長

・現在の白川中学校の敷地をどう活用するか、建物配置を十分検討し、新校舎は子どもから町が見える、町の人からも子どもが見えるような設計を考えていきたい。

○玉置学校再編専門監

・ご意見のあった子どもの姿が見える学校については、かねて教育委員会としてもめざしているところであるので、プロポーザルの要件に加えていきたいと思う。

他の自治体で、同一敷地内で保育園、小学校、中学校という3つの施設が建てられていたが、いずれも建替えとなった。それぞれの施設は複雑な配置で建てられていたうえに、新しい建物が完成した後に、既存の建物を解体する必要があった。敷地の隙間も少なく機能的な配置が非常に難しいと感じたが、完成した施設が非常に素晴らしい内容であったという例も把握しているので、皆さんからの意見を参考にしながら今後のプロポーザルや設計を進めていきたい。

○30代 女性A

・私が以前に聞いていたのは、現在の校舎を解体し、プレハブ等の仮設校舎に引っ越しをし

つつ、新校舎を建設するという内容であったが、方針が変わったという理解でよいか。

○鈴木教育長

・この計画については数年前から検討してきた経緯があり、過去には仮校舎として蘇原小学校を利用するという計画もあった。しかし、佐見中学校と白川中学校が統合し、佐見から白川中学校まで約45分かかっている現状を更に蘇原小学校まで約10分延ばすのは厳しいという考えや、現校舎を使用しながら新校舎を建設したらどうかという議会からの意見等を考慮し、改善・見直しを行った内容となっている。更には2年間で建設するスケジュールを考えていたが、役場の新庁舎建設が先に行われることや検討段階において楽集館を何とかしたいという意見もあったのでそれも含めて考える必要が生じた点や、財政的に非常に厳しいという現実的な課題から財政負担を平準化させるため3年間の工期とし、現在の校舎を使用しながら、同一敷地内に新校舎を建設するという方針に至ったものである。

○40代 男性B

・新校舎にあわせて、将来的に楽集館や給食センターを併設する予定となると敷地としては足りるのか。

○鈴木教育長

・敷地を広めることはかなり難しいので、いかに効率的な施設の配置を考えていくことが重要だと考えている。かつて施設の1階に図書館や給食センター、2,3階を校舎とする施設の複合化を考えたこともあるが、できるだけ土地が減らないよう工夫をしながら将来的に3つの施設配置を検討した基本計画を定めたいので校舎建設を進めることが必要になる。

○鈴木教育長

・今日で8回目の地域説明会となった。多くの皆さんに参加いただいたが、保護者の参加は少ないので改めて学校行事等の際に本日の資料を配付し、おおまかな説明をしたいと考えている。また、5地区で8回実施したが、白川地区については、説明した内容で概ねご理解をいただいたと感じている。更に配慮すべき事項としてご意見をいただいたと受け止めている。地区によっては学校は残してほしいというように統合や校舎建設の手前の段階の意見もあった。地区ごとに状況は違うので、今後は統合した場合にどのような学校になるのか、どのような教育を目指すのかを検討し、その内容をお示しできる段階で改めて説明の機会を設けたいと考えているので、引き続きご理解ご協力をお願いしたい。

(4) 閉会あいさつ 大岩課長 (20:55閉会)